

JNSA PRESS Vol. 35

「組織で働く人間が引き起こす不正・事故対応WG」発足(2012/7)



JNSA PRESS

JNSA ワーキンググループ紹介

組織で働く人間が引き起こす不正・事故対応 WG

WGリーダー セコム株式会社 甘利 康文

「組織で働く人間が引き起こす不正・事故対応 WG」は、JNSA の WG の中でも新しい（昨年7月発足）、そして少し変わった WG です。現在は、月に1回くらいのペースで集まり、勉強や、知見の共有を行っている段階です。今回はこの WG についての紹介をさせていただきます。

これまで、多くの組織が、そこで働く人間のルール違反（不正）によって被害を受けています。メンバー

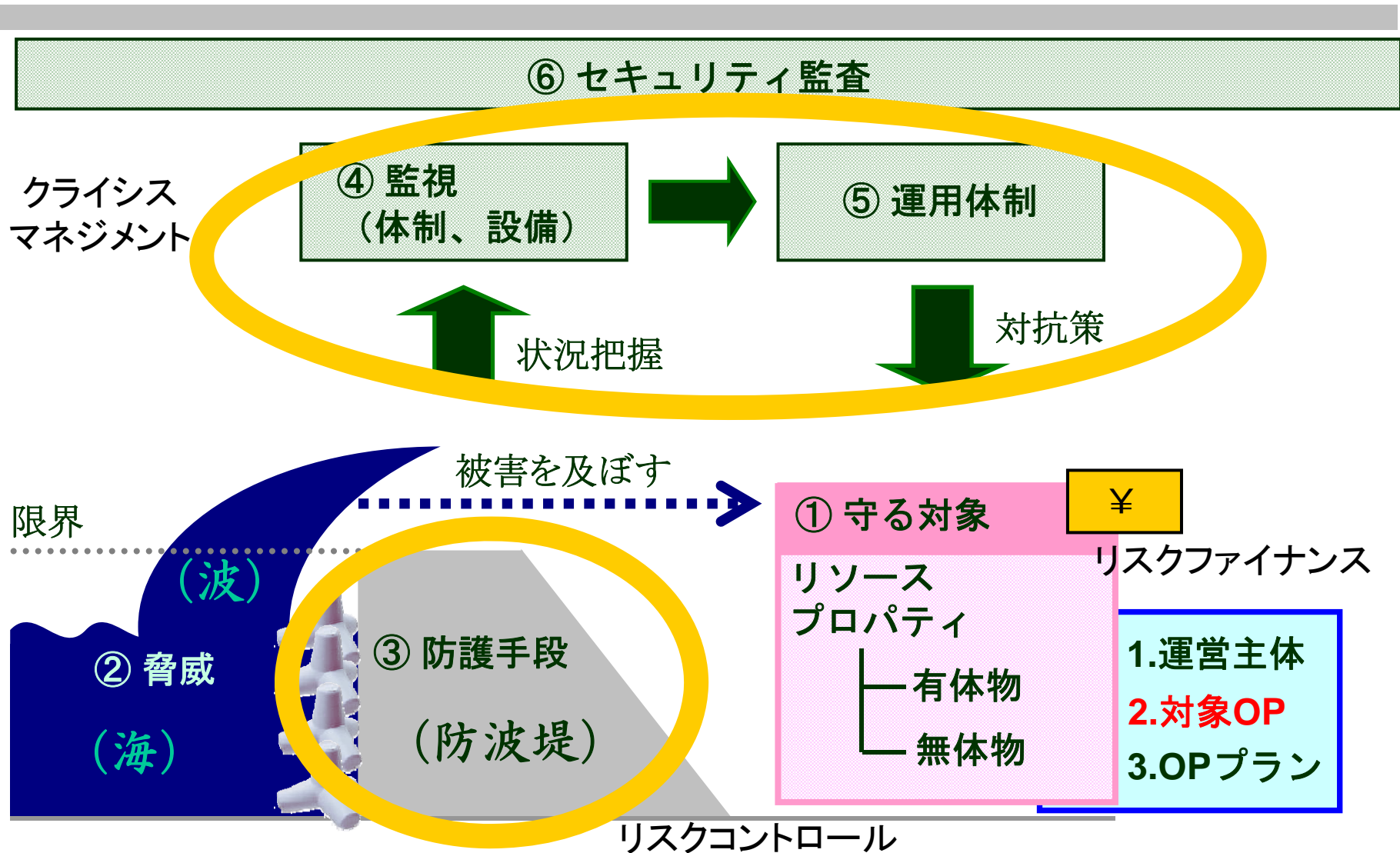
情報セキュリティ分野では、人による情報漏洩が話題になり、多くのベンダーから、技術的にその対策を行うソリューションが提供されています。この大きなトレンドも、もとをたどれば、組織の内部統制の強化が、社会的に求められ始めたことに、その源流の一つがあるのではないかと思います。

人による情報漏洩は重要な事故ですが、組織の内部に要因がある事故はそれだけとは言えません。その

活動目的

組織で働く人間が引き起こす事故、すなわち意図を持った「内部不正」と、意図のない「ヒューマンエラー」を対象として、これらの「内部不正・事故」の防止／抑止方法論を具体的にまとめること

セキュリティの基本モデル



最も重要な守るべき対象は、その組織の“オペレーション”

産業界のセキュリティ意識

IPA、JNSA、JASA、JSSM等：「情報セキュリティ」

⋮

安全工学(会)

火災, 爆発, 破壊, 工業中毒, 職業病, 労働障害, 環境破壊などの「産業災害」が対象

セキュリティ

最も重要な守るべき対象は、その組織の「オペレーション(OP)」

組織のOPをまわしているのは「そこで働く人間」

全てのビジネスについて内部窃盗が原因で立ち行かなくなる割合： 30%[†]

[†] ミネソタ大学の調査による, Security Management, Sept. 1985

内部不正/HEの予防/抑制は、「OPを守る」ための重要テーマ

「表沙汰になりにくい」ため系統的対策が成されてこなかった分野

「IPA GL」と「JNSA SG」の位置付け

IPA ([独]情報処理推進機構)

「組織における内部不正防止ガイドライン検討委員会」発足(2012/7)

法律専門家(弁護士)、情報セキュリティ専門家、企業セキュリティ部門責任者、(経済産業省) 等がメンバー



「内部不正防止ガイドライン」公表(2013/3)

<http://www.ipa.go.jp/security/fy24/reports/insider/index.html>

内部不正対策:

情報システム部門のみならず、経営者が主導し、人事、総務部門等も含めた組織全体で対応する問題

(但し、「内部不正 ≒ 従業員関係者による意図的情報漏洩」の扱い)

公的機関によるガイドラインゆえの抽象的記述も多い

WG活動のひとつとして、産業界の立場から本ガイドラインの「具体的なソリューション」(各社の商品)をまとめたものが今回公開したソリューションガイド

WGとしての問題意識と提言

「組織のOP」では、様々な「課題」に直面する。この課題解決は、

- | | | |
|---|-----------------|---------------------|
| { | ①制度(体制、社会、ルール) | } の3つの方向性からアプローチすべき |
| { | ②人の行動の変革(教育、啓発) | |
| { | ③技術(システム) | |

内部不正対応では、「技術」が重要なのは間違いないが、

「組織のあり方」、「組織で働く人々」に着目した
セキュリティ対策も必要

JNSAにとっての新たなフィールドに・・・

ご清聴ありがとうございました。